

2019 年度 (平成 31 年度) 学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日	2019年(令和元年)10月31日	

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力 & 感性・思いやり
<ul style="list-style-type: none"> 運動会や体育大会、学習発表会などの学校行事では、子どもたちの一生懸命な姿が見られ、地域の方からも校区の学校の肯定的評価の声をよく聞く。 評価項目の8項目全てにおいて、肯定的評価をいただいております。継続した取組を期待されています。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で「わかった」「できた」と感じる児童生徒が増え、各校での学力調査等の結果も向上してきている。 トラブルもあるが、児童生徒は概ね落ち着いた学校生活を送っている。 新体力テストでは、依然として県平均を平均以下の種目があり指導方法の改善計画に取り組んでいく必要がある。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の将来や目指すものを明確にし、多様な考えを持つ人々とコミュニケーションをとり、自己実現を図ろうとすることができる子ども。 社会の一員としての立場を意識した行動を行い、集団の質を高めることができる子ども。
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた授業改善 あいさつの徹底 体験学習・ボランティア活動の充実 家庭学習の質の向上 特活・道徳の充実 ふるさと学習の充実

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	コミュニケーション力 (合意形成力) & 感性・思いやり (実行力)																		
福山及び柳津町に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。松永中学校区においては、その模範の姿を示す。	めざす子ども像	<table border="1"> <thead> <tr> <th>育成する力</th> <th>コミュニケーション力</th> <th colspan="2">感性・思いやり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2年</td> <td>進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子。</td> <td colspan="2">ルールを守り、進んで手助けができる子。</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>自他の考えの良さや課題を理解できる子。</td> <td colspan="2">相手の立場を考え、自分から行動できる子。</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td>相互の意見をよりよくできる子。</td> <td colspan="2">相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子。</td> </tr> </tbody> </table>			育成する力	コミュニケーション力	感性・思いやり		1・2年	進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子。	ルールを守り、進んで手助けができる子。		3・4年	自他の考えの良さや課題を理解できる子。	相手の立場を考え、自分から行動できる子。		5・6年	相互の意見をよりよくできる子。	相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子。	
育成する力		コミュニケーション力	感性・思いやり																	
1・2年		進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子。	ルールを守り、進んで手助けができる子。																	
3・4年	自他の考えの良さや課題を理解できる子。	相手の立場を考え、自分から行動できる子。																		
5・6年	相互の意見をよりよくできる子。	相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子。																		
学校教育目標	研究	教科等	I 群：国語科（「読む」領域） II 群：特別活動（学級活動(1)を中心に）																	
進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成	主題・内容等	児童が主体的に考え学び合う中で、「分かった」「できた」を実感できる授業づくり～思考スキル・コミュニケーションスキルの活用を通して～																		
現状	めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 思考スキル・コミュニケーションスキルを活用した学び合いが行われる授業 単元・本時のゴールを見据えた上で、「分かった」「できた」が実感できる面白い授業 																		
<p><児童生徒></p> <p>○自分の考えを積極的に伝えようとする児童が増えつつある。指示されたことは、進んで行おうとする気持ちの良さを持っている。</p> <p>●進んで学ぶことや新しいことに挑戦しようという意欲が十分ではないため、持続力に課題があり、受け身にもなりやすい。</p> <p><授業></p> <p>○授業で考えることが面白いと捉える児童が増えている。</p> <p>●児童が関わりながら、学び合いの中でゴールに迫っていく日常的な授業づくり。</p>																				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立柳津小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	70%以上 達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70%以上 達成 評価	総合 評価	改善方策	
3	21世紀型スキル及び倫理観を育成するために、主体的に考え学ぶ授業づくりに取り組み、確かな学力をつける。	★	継続	全職員による「わかったできた」が実感できる面白い授業の実践を徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> 児童と単元計画を共有する。 授業において、スキルを活用した児童同士の学び合いに取り組み 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「授業は面白い」の肯定的評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □「授業が面白い」は79%で、達成率は87%。 □単元計画の共有は80%。 □スキルを活用した学び合いは70%。 □合計平均達成率は79%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 言葉や作品を通じた対話の場を増やし、ペアやグループ、全体などより効果的な方法を工夫する。 1時間ごとの授業において、めざす子ども主体の学びの姿を具体的にイメージし、そのための教師の支援を行う。 				
				家庭学習の質を高める	<ul style="list-style-type: none"> 低30分以上、中45分以上、高60分以上毎日、家庭学習に取り組ませる。 中高学年は、授業と関連させた自主学習の内容を評価し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート、「家庭学習は役に立つ」の肯定的評価を90%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □「家庭学習は役に立つ」は90%で、達成率は100%。 □「家庭学習に取り組ませる」は86%。 □自主学習と評価し合う場の設定は68%。 □合計平均達成率は84%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 自主学習ノートを学級や異学年で交流し合い、内容の充実を図る。 中学校区のノーマディアデー期間に、自主学習のポイントについて指導する。 				
1	21世紀型スキル及び倫理観を育成するために、児童の自己有用感を高める。	★	見直し	自分の良さをみとめ、関わることを楽しむ児童を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を中心に、児童が関わり合い、認め合う活動を全学級で計画的に実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「自分には良いところがある」「自分や自分の良さは他人から認められている」の肯定的評価を85%以上にする。 	<ul style="list-style-type: none"> □「良いところがある」「認められている」は90%で、達成率は105%。 □関わり合い、認め合う活動は78%。 □合計平均達成率は89%。 	3	3	<ul style="list-style-type: none"> 週に1回以上、児童同士や教師から認められる場面を設定する。 学級会で児童自身が合意形成を図れるよう、多様な意見が出し合えるよう授業改善をする。 				

1	21世紀型スキル及び倫理観を育成するために、児童の体力を向上させる。	新規	運動を楽しむ習慣をつける。	<ul style="list-style-type: none"> 学級や異学年での遊びを月1回以上企画実施する。 体育授業時サーキットトレーニングを実施する。 	児童アンケート 「外遊びを週の半分以上している」の肯定的評価を70%以上にする。 長座体前屈において、県平均値を超える児童を80%以上にする。	<input type="checkbox"/> 外遊びは81%で、達成率は115%。 <input type="checkbox"/> 長座体前屈は52%で、達成率は65%。 <input type="checkbox"/> 学級や異学年の遊びは80%。 <input type="checkbox"/> サーキットトレーニングは84%。 <input type="checkbox"/> 合計平均達成率は86%。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 課題の大きい長座体前屈は、毎月集約し、児童が継続して練習できる場を設ける。 児童会が中心となり、全校遊びを企画する。 				
2	業務改善を進めるために、職員は、組織的指導力を向上させる。	★ 継続	各主任を中心とし、各自が、取組への参画意識を高め、成果を上げる	企画委員会で、各主任が、進捗状況を相互評価し合い、積極的に改善をする。	職員アンケート 「仕事へのやりがい」「充実感」の肯定的評価を80%以上にする。 起案提出期限の厳守	<input type="checkbox"/> やりがい、充実感は88%で、達成率は110%。 <input type="checkbox"/> 起案提出は56%。 <input type="checkbox"/> 合計平均達成率は83%。	2	3	<ul style="list-style-type: none"> 業務について常に「子ども主体の学び」の視点で見直しをし、見直しをもって取り組めるよう計画を立てる。 				

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。